

丹波平定の道



明智光秀(1528~1582)

丹波平定年表

1575(天正3)年	6月 丹波平定を命じられる
7月	桐野河内(園部町船岡付近)出陣
11月	黒井城(丹波市)を包囲
1576(天正4)年	1月 波多野氏の裏切りにより、黒井城から撤退
12月	桐野河内(園部町船岡付近)の支配を伊勢氏から細川氏に知行替え
1577(天正5)年	1月 丹波亀山城(亀岡市)築城
10月	初井城(篠山市)などを攻撃し落城
1578(天正6)年	3月 黒井城主・赤井直正が病死
12月	八上城(篠山市)を包囲
1579(天正7)年	6月 八上城落城(この頃、八木城も落城したと伝わっている)
8月	黒井城落城
9月	多紀郡内(丹波篠山市)を領域化
	天田郡(福知山市)、何鹿郡(綾部市)へ進行
1580(天正8)年	ごろ 福知山城築城
8月	丹波を領国として与えられる
1582(天正10)年	6月 本能寺の変

人物像

「本能寺の変」で有名な明智光秀は、三日天下や裏切り者など、悪いイメージが付きまといまいます。しかし、丹波亀山城や福知山城の築城、由良川の治水工事のほか、城下の地租免除などの治世に長け、領民からも慕われていました。また、戦国時代には珍しく側室を置かず、愛妻家としての一面も見せています。

■丹波平定の主な動き

1575(天正3)年、織田信長は重要指令として、明智光秀に丹波平定を命じました。この頃の丹波国は、波多野氏(八上城主)が戦国大名化を遂げつつある中、内藤氏(八木城主)や赤井氏(黒井城主)も一定の領域を保っていたと考えられる状況でした。同年11月には赤井氏を包囲した後、味方であった波多野氏の裏切りにより撤退。途中、天王寺の戦いや信貴山城の戦いに出陣の後、1577(天正5)年、丹波平定の拠点に丹波亀山城を築城すると、勢いに乗じて約2年間で諸城を落とします。1580(天正8)年、信長に丹波国を恩賞として与えられると、城下町の整備や地租免除など、治世に取り組みしました。

南丹市内の足跡

丹波平定においては、南丹市内の城や寺社なども焼き落とされました。一部を紹介します。

八木城跡(八木町八木)

内藤氏が居城した八木城は規模が大きく、丹波三大山城の一つに数えられています。1579(天正7)年に落城後、光秀の手により改修が行われますが、本能寺の変後、廃城となりました。

キリシタン武将の内藤ジョアンが最後の城主とも伝えられる城山からは、亀岡盆地の素晴らしい景観を見渡すことができます。

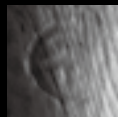


▲八木城跡から見る八木町の眺望

賀善寺(日吉町中世木)



▲賀善寺



◀焼印

光秀が周山城(京都市右京区)を築城する際、近隣の寺社から資材を集めていました。本堂の丸柱20本には、「十兵衛(光秀の通称)」の焼印があり、徴発(取り立て)対象としていましたが、柱丈が短かったために免れたと伝えられています。

龍興寺(八木町八木)

龍興寺は八木城跡の麓に位置し、八木城落城の際、全ての建物が焼失しましたが、1583(天正11)年に再建されたと伝えられています。



▲龍興寺

寺の前に梅園があり、春には花見客で賑わいます。